

病)―運送屋―義勇軍の挫折を経てだるま食堂を
開業)

(十二) 最後に子孫や国民に言い遺したいこと

戦争の悲惨さという事実を目の前に見て、二度と同じような運命をたどりたくない気持ちでいっぱいです。終戦直後のソ連の行動たるもの、筆舌に尽くし難い状態でした。目の前を通るシベリア鉄道の貨車の中には我々が築いた尊い財産、家具は言うに及ばず、豊から箒、またアンペラまで山のように積んで西の方へ毎日のように走る。今でも目に焼きついています。その上、捕虜を厳寒のシベリアの地へ何十万人も送り込み、自国の復興のため強制労働で酷使し多くの戦友の命まで亡くし、地獄のような生活を強いられ、帰国してもその後、後遺症に悩んだ人も数多くおりました。

抑留中の労苦記録

山梨県 渡辺清士

(一) 出生から入隊まで

- ① どこで出生……山梨県南都留郡河口湖町浅川
- ② いつ出生……大正十三(一九二四)年八月一日
- ③ 学校……船津尋常高等小学校高三卒業

(二) ソ連軍侵攻前

- ① いつ入隊……昭和十九(一九四四)年十二月一日

現役

- ② 入隊場所……東部六部隊第五中隊
 - ③ 駐屯地……北支青城(という町名)
- (三) ソ連軍侵攻をどこで受けた
- ① いつ……昭和二十年八月十五日
 - ② どこで……北朝鮮
 - ③ どんな状況で……兵器を興南女学校へ収めた。

(四) 終戦

①感想……何とも言えない。

②武装解除から収容所入まで……奥南港より第一梯団でウラジオストック港へ上陸、五〇km離れた炭鉱の町アルチョム収容所へ入る。

(五) シベリア抑留地への移送

①いつ頃……昭和二十年八月二十日ころ

②この地点からどこへ送られた……北朝鮮からアルチョム収容所

何日くらい……船で二日、行軍二日

(六) 抑留地の生活

①第一次収容所どこ……アルチョム収容所

収容人員……約二千人

②生活の様子……悪い 住まい……普通

食事……悪い 仕事……八時間労働

衣服……軍服 入浴……なし

シラミ……衣服にいる 南京虫……なし

③作業の状況

主作業……石炭掘り、坑木運び 単位……個人

④給与……なし

(七) 労役

①収容人員……約二千人

②冬最低温度……零下二〇―二五度くらい

冬はどうして生活したか……石炭を焚く

③健康管理は……十分に気をつけた。

④常日頃健康を保つ上で役に立つことは……風邪を

ひかないこと。

⑤衣服について扱われたことは……防寒用のコートを配布された。

(八) 抑留者の統制管理

①点呼・作業場への出入……厳しかった

②食事の状況……悪い

③収容所生活全般……普通

(九) 抑留中の生活と極限状態

①乗りこえてきた信念……軍隊教育

(十) 帰還

①ダモイをいつ、どこで聞いたか……炭鉱病院

②集結地……ナホトカ港

③船内生活……よかった

④ 上陸地……舞鶴港

⑤ 収容期間……昭和二十年九月—二十二年八月、二年

(十一) 帰国後の生活……よくない

(十二) 最後に子孫や国民に言い遺したいこと

平和な日本を作ること。

抑留中の労苦記録

山梨県 有野康彦

(一) 出生から入隊まで

① どこで出生……朝鮮全羅北道金堤面玉山里

② いつ出生……大正九(一九二〇)年二月二十一日

③ 学校……山梨県南都留郡瑞穂村実業学校

(二) ソ連軍侵攻前

① いつ入隊……昭和二十(一九四五)年五月頃

② 入隊場所……三江省 ジャムス独立歩兵軽機関銃

中隊

③ 駐屯地……ジャムス 戦地……三江省方正

(三) ソ連軍侵攻をどこで受けた

① いつ……昭和二十年八月十八日

② どこで……三江省方正

③ どんな状況で……戦車隊による侵入

(四) 終戦

① 詔勅……昭和二十年八月十五日

② 感想……神国日本が負ける? 実感が湧かない。

しかし現実を知るのにそんなに時間はかからなかった。

③ どう終戦したか……侵入してきたソ連戦車隊により武装解除された。菊の紋章を削り落とす暇なく、ガチャガチャと三八小銃を積み重ねられ、涙を飲んだ。

④ 武装解除から収容所入まで……方正で武装解除、

当地の小学校に一泊、通河で他の部隊と合流し、

松花江沿いに依欄で対岸に浅瀬を渡りジャムス

まで強行軍。移動中は前後にソ連兵がマンドリン

(自動小銃)を持って、脱走の警戒と満人たちの